

2017.9.21
vol.60

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品『自転車泥棒』



長い失業の末、映画ポスター貼りの職を得たアントニオは、妻の嫁入り道具のシーツを質に入れ、代わりに仕事に必要な自転車を請け出した。6歳の息子ブルーノを乗せ町を回るが、ふとした際に自転車が盗まれてしまう。それなしでは職を失う彼は、無駄と承知で警察に行くが相手にされず、自力で探すことにする。しかし、ようやく犯人に辿り着いたところで仲間の返り討ちに遭いかけ、思い余って今度は自分で自転車泥棒を働くが……。

監督：ヴィットリオ・デ・シーカ

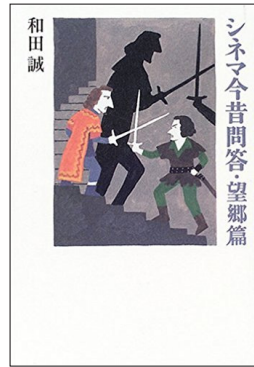
原作：ルイジ・バルトリニ

脚本：チェザーレ・ザヴァッティニ
スーズ・チェッキ・ダミーコ

出演：ランベルト・マジョラーニ、エンツォ・スタヨーラ
リアネーラ・カレル、ジーノ・サルタマレンダ

製作：1948年 イタリア 上映時間：88分

『イタリア映画史入門』 1905-2003	ジャン・ピエロ・ブルネッタ／著	鳥影社	778.237
『イタリア映画を読む』 リアリズムとロマネスクの饗宴	柳沢 一博／著	フィルムアート社	778.237
『映画と共に歩んだわが半生記』	淀川 長治／著	近代映画社	778.04
『名作はあなたを一生幸せにする』	淀川 長治／著	近代映画社	778.04
『シネマ今昔問答 望郷篇』	和田 誠／著	新書館	778.04
『20世紀の映画監督名鑑』		共同通信社	778.28
『先生、貧困ってなんですか?』	自立生活サポートセンター・もやい／著	合同出版	368.2
『貧困についてとことん考えてみた』	湯浅 誠／著	NHK 出版	368.2
『すぐそばにある「貧困」』	大西 連／著	ポプラ社	368.2
『貧困の救いかた』 貧しさと救済をめぐる世界史	スティーヴン・M. ボードイン／著	青土社	368.2
『名作映画大全集 1』 終着駅	ヴィットリオ・デ・シーカ／監督	モーシオンプロ	778.253



コラム 『自転車泥棒』

さあ、貴方ならどうする？ K.M.

盗まれた一台の自転車を探して、ローマの町をさまよって歩く父と子。厳しい現実に翻弄される父の悲哀と、そんな父を助けようとする息子の健気な姿。ドキュメンタリーのようなリアルなタッチとシンプルなストーリーで、敗戦後イタリアの混沌の姿とそこに生きる庶民の心情を鋭く捉えたヴィットリオ・デ・シーカ監督の『自転車泥棒（1948年製作）』は、アカデミー賞特別賞をはじめ、数々の賞（日本では1950年度のキネマ旬報ベスト・テンの第1位）を獲得し、第二次大戦後のイタリア映画を代表する名作との評価が定着しています。

今回上映のこの名作は、実は映画を「単なる娯楽」だと思っている方にとっては、あまり後味がよくないかもしれません。日本公開の数年後に、大阪の名画座で初めてこの作品を見た中学生の私がそうでした。名作とされているこの作品は不幸な親子の話の様だが、最後にはきっと救いがあり、ジーンとくるような感動が味わえるのでは、という私の期待はあっさり裏切られ、突き放すようなラストシーンにすっかり落ち込んでしまいました。

この印象はずっと最近までそうだったのですが、今回上映会の下見で、半世紀以上ぶりにDVDでじっくり見直してみると、88分という短い上映時間に集約された、たった一日の親子の描写の中に、一見「お先真つ暗」とも思える、この愛すべ親子を救うヒントが巧妙に組み込まれているのではないかとこの見方ができるようになりました。

いくつかのシーンを拾い上げてみます。

「自転車を盗んでも、家族の生活を守ろうとする父親の本能」「しっかり者の奥さん」「良さそうな夫婦仲（微笑ましいいちゃつきシーンあり）」「ビンタを食らっても、身を挺して父親をかばう健気で賢い息子」「すくすくと育っている赤ちゃん」「質素ながら人形なども飾ってある室内（まだ質草はありそう）」「値踏み交渉に応じてくれた質屋の窓口」「相談に乗ってくれ、自転車を探す手伝いもしてくれた友人たち」「必死に父親をかばう息子を見て、許してくれた自転車の持ち主」「上から目線ではない市役所の窓口と警官」「敷居の高くない教会の慈善活動」「自転車さえあれば、安定した収入源になりそうなシネマのポスター張りの仕事」等々。

自転車が盗まれるということ以外、事件らしい事件は起こらない、一見単純でごく限られた台詞しかないこの映画の脚本を担当したのは、新進のチェザーレ・ザヴァッティーニですが、彼は盗まれた自転車を探し求める父子のたった一日の物語を、6ヵ月かけて緻密に練り上げたそうです。デ・シーカとザヴァッティーニは、「これだけの条件が揃えば、不況が悪い、社会が悪い、戦争が悪いというレベルまで問題を広げなくても、父子を最悪の事態から救う道がありそうですね。さあ皆さんならどうする？」と問いかけている様です。

70年前のこの作品が、未だに世界各国のオールタイムベスト100の上位にランクされ、インターネット上で若い世代から多数のレビューが寄せられている理由の一端がわかる気がします。デ・シーカとザヴァッティーニの二人はこの作品の後も、永年イタリア映画界を代表する“黄金コンビ”として活躍し、『終着駅（1953年製作）』、『ひまわり（1970年製作）』などの名作を世に送り出しました。



8/24 「あん」の感想など

・涙が出ました。心がふるえる内容でした。人は表面ではなく、内なる優しさが大切ですね。素晴らしい作品を今後もお願いいたします。

・とても内容のよい映画でした。私たちは時に「病気」ではなく「病気の人」を差別してしまいますね。とても考えさせられる映画でした。最後の主題歌も心に沁みて、とてもよかったです。

・久しぶりに涙しました。愛はあげるもの。やさしさがあれば、やさしさは戻ってきます。年老いて一人であることが多いので、今日はよい一日になります。ありがとう。

・イギリスに住んでいる友人が、「イギリス人の間で評判なんだよ」と教えてくれた映画だったので、上映されてうれしかった。自然や四季・風を感じました。字幕もいいですね。

・さすがの樹木さんの演技に圧倒されました。そして、ハンセン病について、社会の捉え方、いや私自身の考えを変えなくてはと感じました。

・よい映画の企画・運営をありがとうございました。岡崎のような地方都市ではなかなかこのような作品を見ることができません。今後もよろしくお願いします。期待しています。

・人は死ぬまで勉強すること、知らない世界があることを痛感しました。自分の生活の幸せを本当に強く感じました。

・優しいお話でした。映像の撮り方も「フィクションのようなきれいな世界」ではなく、自分の日常にもこんなステキな景色があるんじゃないかと思わせる映像だったし、演者も上手でした。またこの監督の映画があれば、ぜひ上映していただきたいです。

・すごーい映画でしたね。不思議に身体が緊張し続けました。「生命の重さ」が十分に感じられたからだと思います。河瀬直美監督は「別格」の凄い方なんですね。今世界から注目されている方だとよく分かりました。中身の濃い映画をみせていただき深く感謝します。

・ハンセン病という重いテーマと、千太郎さんとわかなちゃんの人生と、桜や自然の美しさと、とてもよい映画をありがとうございました。徳江さんの言葉もよかったです。

・「あずきの声を聞く」なんて。あずきがあずきになるまでを想像するなんて、考えたこともなかったのでびっくりした。想像するとはそういうことなんだと思いました。ハンセン病の患者さんのお気持ちも考えたことがなかったことに初めて気付かされた。本当に感動しました。

・さすがに河瀬直美監督作品ですな。丁寧な仕上がりでしたね。生き方も仕事の仕方も、すべてに通じる「丁寧」ということ。残された時間がどれくらいか？ 不安でいるより、日々を丁寧に生きていこうと再確認しました。

・映画のコラムは、いつも楽しみに読ませていただいています。今月のドリアン助川さんのインタビュー記事もよかったです。映画は二度目でしたが、深く深く想いました。

・こんなに沢山のひとたちと、今日この『あん』を見れたことに感謝！ 人は、今の自分に疑問というか・・・こんなじゃないの？って思う時期がある。特に。時を重ねてきた今頃。今日、この“あん”に出逢えて本当に、よかったです。ありがとうございました。

・ハンセン病隔離法が、1996年まで続いていたことに驚きました。終戦1945年以後も、戦争により身障者になった方々を1955年頃まで見かけたと記憶しているが（判然とはせずとも）、ハンセン病の方々も、両親から隔離されている社会で生涯を終えられたと、子供の頃に聞いて気の毒に思い、その方々の姿を忘れずにいましたが、この映画でもそれがよみがえり、途中で主人公と共に涙を止めかねて観ていました。感動しました。人の偏見も改めるには、大きな力と長い時間による忘却の歴史が必要と感じました。

・「見る為に、聞く為に生きる意味がある」よい言葉をいただきました。ありがとう！

・話題になった映画で、ずっと見たいと思っていたが機会がないままだった。今日はとても楽しみにしてきた。とてもよい映画でした。50年ほど前、ハンセン病を扱った映画を見たことがありました。あれから長い年月が経っているのに、偏見とか無理解とかち、つとも変わっていませんだと思ってしまいました。でも、少しずつは変化していくのかも。わかなちゃんはモックンの娘さん？横顔がそっくり・・・、雰囲気のある女優さんになりそうですね。

・外は猛暑の中、春の桜やら木枯らしまで、しんみりと悲哀感ただよい、ゆったりとした時間の流れと、芸達者な女優陣の好演に見入ってしまいました。久しぶりに「生きるとは？」と考えることを思い出させていただきました。

・隔離された狭い空間でも、置かれた場所で自分の人生を生きる姿に感動！

・仕事が休み（夏休み）中ということで、初めて参加させていただきました。平日の休みがないため、通常の上映時間に参加できません。土、日などにも企画して多くの方にチャンスを差し上げてください。映画の上映はよい企画だと思います。今日の映画はたいへんよい映画でした。ありがとうございました。

・一般上映のときにいけなかったもので、いつか見たいと思っていた映画でした。よい映画ですねー。樹木希林さんの存在感ってすごいね。ハンセン病や伝染病への偏見は今もあるし、ずっと過去からつながっていると思います。テーマもよかったです。ドリアン助川さんもすごいね。

・夜の部は今日で2回目ですが、1回目より多くの参加者ですね。これからも夜の部を続けて欲しいです。午前、午後のどちらか1回と、夜間の2回はどうでしょうか。故郷の東村山の風景がとても懐かしく、昔からハンセン病施設があったのが思い出されました。

・『あん』の一般公開を見逃したので、今日は仕事の休みをとって見せていただききました。上映時間“18:30~”も、定例にさせていただけると嬉しいです。

・これまで、邦画への字幕スーパーのことは考えたことがなかったので、今回難聴の方の不自由さに気づき、ハッとさせられました。これもバリアフリーなんだ！ 差別、風評被害、人間の温かさ、心の奥にあるもの・・・など、考えさせられました。無料で見せていただいて恐縮です。

・本日は本当にありがとうございました。日本語字幕付き上映、心がすっきりして楽しめました。ヒアリンググループ（時期誘導ループ）も途中からうまく入ってきました。

・もちろん自由参加ですが、映画を観たら別室でフリーの話し合いは難しいでしょうか。「読書会」のように一人一人の思い・考えを深め合えたら最高です。

→10月～5月の間は、ホワイエに於いて「サロン」を開催しています。皆様のご寄付で、お茶菓子を無料提供させていただきます。開場後から上映前までのご利用が主ですが、午前の部の終了後もご自由にご利用いただけます。また、午後の部の終了後は、会場の片付けの後、市民活動コーナーに於いて、スタッフの反省会などしていますので、お気軽にご参加いただければと思います。

【音声ガイドモニタリング】戸松

今回、日本語字幕と共に、「音声ガイド」を取り入れました。4名様のご利用がありましたが、「音声ガイド」がどのようなものか、アイマスクを着けて体験してみました。すでに何度か観ている作品なので、脚本を音読しているように聞こえましたが、「音声ガイド」を利用された方々に、直接ご感想を聞けなかったのが残念でした。

今回の上映作品を通じて、初めて「音声ガイド」というものの存在を知りました。大きなスクリーンで、大勢の人と映画を見る楽しさを、より多くの方々と共有できることがわかりましたので、今後の上映作品の選択に活かしたいと思います。

インフォメーション

『りぶら』および周辺提携駐車場のご案内



りぶら本館駐車場は9:00～21:00。2時間無料。2時間を超えると30分ごとに100円課金。
東駐車場1・2と康生パークは24時間利用可能。22時から7時は30分50円。入庫より24時間まで1,500円打ち切り。
岡崎公園は8:30～21:30、籠田公園地下駐車場は、最大3時間まで無料。他の条件はりぶら本館駐車場と東駐車場に同じ。
駐車券はりぶらの総合案内か、図書館の1階および2階の貸出カウンターにご提示ください。